



「学力向上に係る研修会」 橋谷 由紀 教授 講演

所長 平安山 敏和

一学期後半がスタートし、各園・学校では、子供たちの賑やかな声で、活気に溢れていると存じます。教育研究所では、夏休み中に法定研修、各種経年研修、授業実践講座等を開催いたしました。各種講座にも多くの先生方に参加していただき、感謝申し上げます。また、校内研修会への指導主事要請も多く、先生方の真摯に学ぶ姿勢や意欲の高さを感じることができました。今後も、先生方の授業力向上に向けて、研修会・講座の実施及び指導助言等を継続してまいります。

さて、八月二十一日に日本体育大学児童スポーツ教育学部の橋谷由紀教授を招いて「学力向上に係る研修会」を開催いたしました。「キャリア教育の視点を生かした学級づくり」の演題でご講演をしていただき、多くの示唆を与えてくださいました。学級づくりの後、多くの参加者から「今後の学級経営に大変参考になった」「旨の感想を頂きました。講演を振り返り、特に若手教員の皆様に日々留意していただきたい事項を左記に示します。今回の研修会が、市内教員の指導力と、職務に対するさなる意欲の向上に繋がることを願っています。

1 キャリア教育の視点を生かした学級経営の必要性

- ①学級経営の質的な効果を上げるためには「キャリア教育の視点」を意識し、学校の考えを明らかにして、意図的・計画的・組織的な指導を継続することが必要
 - ②学級がうまく機能していない主な原因の把握（102学級の調査 複数回答の上位）
 - ①教師の柔軟性の欠如
 - ②子供の授業内容への不満
 - ③いじめへの対応の遅れ
 - ③校長のリーダーシップ反映不足
 - ④特殊な教育的配慮を必要とする子供がいる
 - ⑤学校と家庭の信頼関係が築けていない
 - ⑦必要な教育を家庭で受けていない子供がいる
 - ⑧校内での研究や実践の成果が学級で生かされなかった
- ③学級づくりにはゴール・ルール・リレーション・組織・（学級の）文化すべてを意識した特別活動の実践が不可欠。

2 よい学級づくりのための教師の留意点

- ①教育力の高い学級とはどんな学級かを理解していること。
※支え合い、学び合い、高め合う学級
- ②どんな学級が良い学級か理解していること。
※すべての子供が幸せを感じる学級。（愛され・褒められ・役にたつ）
- ③苦しいときもあるが楽しい学級であること。 ※「苦楽しい」・（遠藤周作 談話より）
- ④家庭的・遺伝的に子供が抱えている不利な要素を帳消しにできる指導力のある教師であること。
- ⑤集団活動のすべてが学級目標へつながることを子どもにも意識させていること。
※学校教育目標・学校経営方針が反映する学級経営
- ⑥キャリア教育の視点を意識し、今の学びが将来どう役に立つのかを子供にも理解させていること。
- ⑦一人一人のリーダーシップの育ちを意識した学級経営がされていること。
- ⑧多面的、多角的に子供を見る学級経営がされていること。
※子供の性格・学習・生活・家庭環境・友人関係 etc.
- ⑨居場所づくりより一人一人の役割作りを重んじ、一人一人の役割があること。
- ⑩保護者の考え方が時代とともに変化していることを理解していること。
※保護者は知識だけを求めている。
- ⑪学級が荒れ始める初期の段階を察知できること。
※不適切な行いをする子供がリーダーとなりフォロワーがいる構図
- ⑫教員は教育の要であることを理解していること。

9月の教育研究所事業予定 第112期 教育研究員成果報告会&修了式

第112期教育研究員が、研究所での6ヶ月間の研究成果について、検証授業での様子を交えて報告いたします。

- 期 日 9月26日(木) 15:00～
○場 所 那覇市厚生会館3階多目的ホール
○研究員 宇禄 真由美（城北こども園教諭）
喜久山 聡子（若狭小学校養護教諭）

経年研修・研究授業スタート

9月より、教職2年目研修（各教科）、中堅教諭等資質向上研修（道徳科、特別活動）の研究授業が始まります。また、10月より、道徳科、特別活動に取り組む、教職3年目研修の研究授業も始まります。これまでの授業実践を踏まえ、自己の課題の解決を目指して授業を実施し、指導主事や教科指導員等による助言を受けることとなります。校長先生、教頭先生には、校内での御指導、調整等でお世話になります。どうぞよろしくお願いいたします。

新刊のお知らせ



書名	著者
『学力観を問直す 国語科の資質・能力と見方・考え方』	藤森裕治 著
『教師の学び方』	澤井陽介 著
『学習科学ハンドブック（第二版） 第3巻 領域専門知識を学ぶ/学習科学研究を教室に持ち込む』	R.K.ソーヤー 著
『中学校 新学習指導要領 ポイント総整理』	東洋館出版社 編